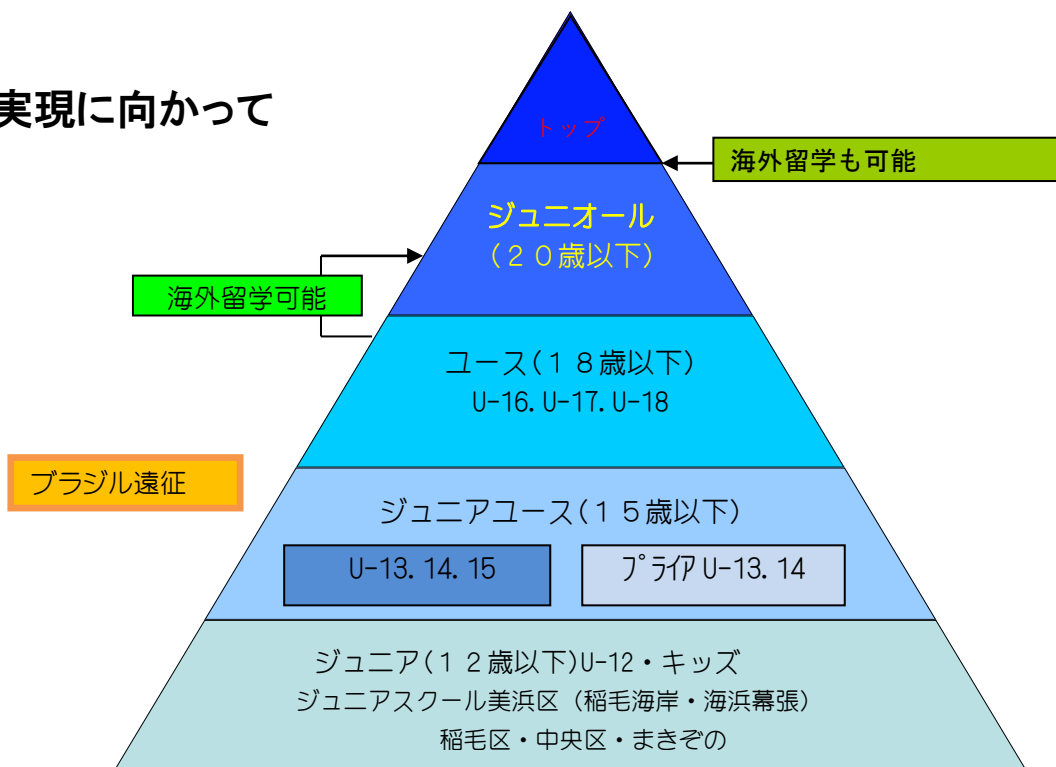


千葉サッカークラブ組織図

夢の実現に向かって



☆ トップ・・・2006年設立

● 目的

- ◇ 25歳までの育成、ここからプロクラブへ
- ◇ クラブのサポーターの為にプレー、役割はプロ選手と変わらないアマチュア選手

● 目標

- ◇ 2021年「関東リーグ」へ参入
- ◇ 2023年までに「JFL」参入
- ◇ 2025年までに「 」参入

☆ ジュニオール・・・2024年設立予定(現在はトップと同じ活動)

● 目的

- ◇ 18歳時にプロクラブと契約できなかったが、育成するとプロ契約の可能性はある、18歳から20歳までの育成カテゴリー (ブラジルでは20歳迄の育成システムが主流)

● 目標

- ◇ 関東リーグ参入
- ◇ 将来的にブラジル人留学生の受入れをし、日本人選手に刺激をあたえ、ブラジル人選手の育成も行う

● その他

- ◇ ユース時にクラブへの貢献、技術的に優れている優秀選手は、クラブが出す費用で2週間から6ヶ月間ブラジル留学

☆ ユース(高校生) 2002年設立

● 目的

- ◇ 18歳時にプロクラブと契約できる選手の育成

● 目標

- ◇ 各大会の上位に進出、しかし主の目的は個人の育成。上位進出は個人を育成する為（全国大会出場）
- ◇ 千葉県リーグ、関東クラブユースリーグの上位リーグに所属

● その他

- ◇ 特待生制度 各会費免除等
- ◇ 在籍中又は卒業後、希望者は2週間から6ヶ月の海外留学

☆ ジュニアユース（中学生） 1999年設立

● 目的

- ◇ サッカーを通じて心身共にたくましい人間形成をしていく。
- ◇ 文武両道(勉強と学校生活、社会生活を健全に過ごす。)
- ◇ サッカーの楽しさを再認識し、18歳～22歳時にプロクラブと契約できる為に技術力を高めていく。

● 目標

- ◇ 個人の育成を主眼に各大会の上位に進出する。(千葉県リーグ1部、クラブ選手権、高円宮杯は関東・全国大会出場)

● その他

- ◇ 夏休み等の長期休業中に約2週間海外(ブラジル)遠征(自費)

☆ ジュニア(小学生) 2001年設立

● 目的

- ◇ サッカーは「楽しい遊び」というものと理解する
- ◇ 楽しい遊びの中から、協調性や心身の発達を習得する
- ◇ 文武両道(勉強と学校生活、社会生活を健全に過ごす)
- ◇ 将来を大切にし、18歳～22歳以降にプロ契約できる為の技術力を習得する

● 目標

- ◇ 個人個人がサッカーは楽しいものだ理解すること
- ◇ 大切なのはただ勝つことではなく、自分がより上達していくこと、対外試合では練習してきたことを大切に、全力を出しきることでできる選手の育成。

千葉サッカークラブの育成について

千葉サッカークラブでは、スポーツを通して心身共に鍛え、よりたくましい人間形成を基本に、本気になってサッカーの発展に寄与する人々とプロ選手育成に力を入れています。また、学生時代には文武両道を目指しています。

今までの日本サッカー界では、プロクラブの下部組織に所属していなければ、高校卒業時や大学卒業時にしかほとんどプロ契約するチャンスはありませんでした。18歳時にまだ伸び代があるのにサッカーを辞めてしまう選手が多くいます。ブラジルをはじめ各サッカー一流の国々は18歳を過ぎてもまだチャンスがあり、20歳半ばまで真剣にプレーを続ける制度があります。

千葉サッカークラブも、ブラジルのクラブをモデルにしながら18歳時に最初のチャレンジをし、かなわなければ22~23歳時、またはそれ以降もプレーをしながらチャレンジし続けられる一貫指導を行っています。

日本サッカー界もこれからは、クラブの一貫育成が主流になる時代が来るでしょう。千葉サッカークラブはいち早くそれを実現しています。

千葉サッカークラブでは、大会の成績や試合の勝ち負けだけにこだわったり、各大会だけに照準を合わせ急いで選手を試合に出すことはしません。

選手が入団し練習や試合を重ねながら個人の能力や課題を認識し、丁寧に能力を高めていく育成をします。

例えば、小学生時に積み上げてきたものを大切にしながらも新しいポジションにもチャレンジしてもらいます。継続的に階段を昇るように選手を育成します。中学生の前半では、個人技能が高まるようボールコントロールとポジションにこだわりながら相手選手の読みの逆を取り、見ている人々を楽しませるサッカーをします。また、中学生の後半には、身につけた個人技術と試合で戦う魂と戦術を身につけ、観ている人々を感動させれる試合を展開し、好成績が残せるよう選手を育成していきます。

また、中学2年生の夏休みを利用し希望者にはブラジルに遠征し、本物のサッカーに携わる機会を約2週間設けます。

プロ選手の夢が絶たれても、サッカーをいつまでも愛しつづけられるように、例えば、審判育成(U-15~18年代時に審判資格取得、審判活動を中心にしたい選手は、県審判委員会の審判割り当てに登録も可能)や指導者育成(選手をしながらU-12年代やスクールでアシスタントをしながら指導者としての活動も可能)も考えています。

本当に、サッカーが好きで、成人しても高いレベルでプレーをしながらサッカーを楽しみたい愛好者・本気になってプロ選手をめざす選手・サッカーの指導者・審判・トレーナー・学校の先生も含め、多くのサッカーに携わる仕事をめざす愛好者のために「千葉サッカークラブ」は、そのチャンスを提供し続けます。